

【特集企画】

「未病と老化」

「未病」とは、病に至る前の健康な状態から離れつつある状態を指し、健康と病気の間を連続的に捉える考え方です。未病の状態を正確に把握し、疾患を発症する前からライフスタイルを見直すことで、疾患予防につながることを期待されます。中国最古の医学書である『黄帝内経』に未病という言葉が登場しますが、高齢化が進む現代においても、未病改善は健康寿命を延ばすための重要な概念として、多くの研究分野から注目されています。このような背景から、最先端の科学的知見に基づいた研究による、様々な疾患に関する未病の解明および解析技術の開発が求められています。

本特集号では、近年明らかにされてきた様々な疾患の未病メカニズムや解析手法に焦点を置き、疾患発症の抑制・予防を目指し、疾患予測・未病評価システムについて最先端のご研究を展開されている4名の先生方に総説を寄稿して頂いた。伊東健先生（弘前大学）には未病におけるミトコンドリアの役割について、小池進介先生（東京大学）には精神疾患の未病について、藤生克仁先生（東京大学）には心疾患の未病について、春木孝之先生（富山大学）には数理モデルを用いた未病の解明についてご教授頂いた。

特集企画担当編集委員

赤木 一考

多田 敬典